

第1学年 総合的な学習の時間学習指導案

猪苗代町立吾妻中学校 第1学年

本校の総合的な学習の時間テーマ **ふれあい・よろこび・おもいやり**
 ～1年 自然とのふれあいから学び、自分にできることを実践する (森林の恵み, 働き, 保護の方法)～

1 単元名 磐梯山ジオパーク学習

2 単元の指導計画 (講師：磐梯山ジオパーク協議会の方々)

- (1) オリエンテーション 2時間
- (2) 磐梯山ジオパーク事前学習 6時間
 - 〔 ①磐梯山ジオパークの概要(2) ②火山の噴火のしくみ(実験)(2) 〕
 - 〔 ③フィールドワーク事前学習(2) 〕
- (3) 体験学習(フィールドワーク) 12時間(2日)(本時)
- (4) 事後学習 6時間

3 本時のねらい

磐梯山ジオパーク各エリアを訪ね歩き、世界に誇れる郷土の特徴(自然・森林の役割や恵み)の理解を深めるとともに、防災についての知識も身につける。

4 学習過程

学習内容	時間 (時)	分担	○教師の支援 評価
〈フィールドワーク1日目〉			
1 フィールドワークのめあてをつかむ。 磐梯山とまわりの大地と自然と人々についての謎を解き明かせ! ・活動内容や注意事項について聞く。	0.5	担任	(バス内で) ・活動内容や場所の特徴を話し、概要をつかませる。また、安全指導を行う。
2 明治の磐梯山噴火の火山壁を銅沼から観察し、噴火の概要や湖沼群の成り立ちを理解する。	3.0	G・T	(裏磐梯スキー場から銅沼まで移動) ・磐梯山周辺の地形や動植物を観察しながら登ることで、生徒の興味・関心を高める。銅沼の水の色と水質を実際に調べ、噴火の影響を確認する。
3 長坂地区の泥流被害を知り、磐梯山周辺の地形が大きく関係していることに気づく。	0.5	G・T	・長坂地区は長瀬川流域の低地にいた人のほうが泥流被害が大きかったことを知らせる。
4 渋谷地区の爆風被害を知り、磐梯山東側の地形の特徴を確認する。	0.5	G・T	・渋谷地区は爆風で大きな被害にあったが、その中でも作りが頑丈な家は被害がなかったことを知らせる。
5 見祢の大石を見学し、表磐梯の地形の特徴から大石が泥流で流れてきたことに気づく。	0.5	G・T	
6 東京電力秋元発電所は秋元湖から水路をひいて吾妻地区で発電していることを知る。磐梯山の噴火でできた湖の恩恵により、都会の人々の暮らしを支えていることを知る。	0.5	G・T	・明治の噴火で被害ばかりがクローズアップされるが恩恵もあることに気づかせる。

7 1日目の学習のまとめをする。	0.5	担任	・1日目の学習を通して、明治の噴火の被害状況とそこからどのように復興したか、さらにどのような恵みをもたらされたかの両面について理解させたい。
〈フィールドワーク2日目〉			
1 磐梯神社と土津神社を見学し、磐梯山の麓の信仰の拠点を訪ねることで当時の人々の思いや人と信仰のつながりに気づく。	3.0	G・T	・2つの神社の見学を通して、磐梯山や人の信仰のつながりに気づかせる。
2 天鏡台や猪苗代リゾートスキー場から表磐梯をながめ、磐梯山と猪苗代湖のつながり、さらにそのまわりを取り囲む川桁山地や背炙山地は大地のぶつかりあいによって山地が形成されたこと、さらに翁島は約五万年前の巨大噴火による岩なだれが堆積したものであることなどを知り、大地と人間の関わりをさぐる。	1.5	G・T	・磐梯山周辺の地形のつくりのちがいに目を向けさせ、それぞれの地形と人間の暮らしとの関わりについて考えさせる。
3 長浜から猪苗代湖を見学し、猪苗代湖の水はどこからきてどこへ流れていくのかを知る。	0.5	G・T	・猪苗代湖の水の流れを知り、地形と水とのつながりに気づかせる。
4 天鏡閣を見学し、明治時代の人々の生活や皇族の生活の様子を知り、現代の生活にどのようにつながっているかを考える。	0.5	G・T	・明治前期の猪苗代や人々の生活について歴史的建造物を見学を通して知らせる。
5 2日目の学習のまとめをする。	0.5	担任	・2日間の体験学習を通して学んだことを感想文にしてまとめさせる。

〈資料〉



銅沼



銅沼の水質 (pH) 調査



裏磐梯火口壁 (裏磐梯スキー場)



見衾の大石



五万年前噴火によるながれ山 (翁島方面)



天鏡台から川桁山地, 猪苗代湖を眺める